



能登やさしいこめづくり情報

田植え編

育苗日数1か月以内の健苗を 植え、分けつを確保！

令和4年4月
能登米振興協議会
能登米生産者協議会
能登南部営農推進協議会
J A 能登わかば

1 健苗の準備

〔は種後1か月以内の健康な苗を田植え〕

- 田植え後の活着や初期分けつの発生を良くするために、は種してから1か月以内の健康な苗を田植えしましょう。
- 種もみの中に養分の残っている状態の葉数(葉齢)が3枚(3葉期)に達する前に田植えをすることが大切です。
- ⇒ 老化苗(育苗日数が長く、葉齢が進んだ苗)では、活着が遅れ、初期分けつの発生が遅くなり、優良茎の確保が難しくなり、未熟粒による品質低下や減収に繋がります。
- 田植えの4~5日前からは夜間もハウス側面を開放し、外気に慣らしましょう(順化)。

2 代かき作業について【超重要】

- 代かき作業は、田植え日や除草剤散布日を考慮して計画的に実施して下さい。
- 環境に配慮した「能登米」生産にあたり、代かきによる濁水の河川流出を防止しましょう。
- 畦が崩れていたり、穴などの漏水箇所は早めに補修しましょう。
- 浅水での代かき作業を実施し、代かき濁水は排水しないようにして下さい。
- 田植え前の「強制落水」は避けて下さい。

3 田植え作業について

- 時期 : コシヒカリについては、登熟期の高温を避け、乳白粒の発生を抑えるため、遅植え(5月10日~20日の田植え)をしましょう。
それ以外の品種は、高温のリスクを回避するため、5月に入ってから行いましょう。全品種において、低温、強風の日は控えて下さい。
- 植付本数 : 3~4本/1株 ⇒ 太植えは、過繁茂を助長します。
- 栽植密度 : 60~70株/坪以上
※分けつ期間が短くなるため、疎植は避けてください。
- 植付深さ : 2~3cm(第1葉が見える程度)の浅植え ⇒ 深植えでは、分けつや根の発生が遅れます。
- 水管理 : 活着後は浅水管理(2~3cm)を基本とし、低温が予測される日や風が強い日のみ一時的に深水管理とします。(天候回復後は速やかに浅水管理に戻して下さい)

- 田植え前と田植え中に、田植機の栽植密度、植付け深さの設定を確認しましょう。

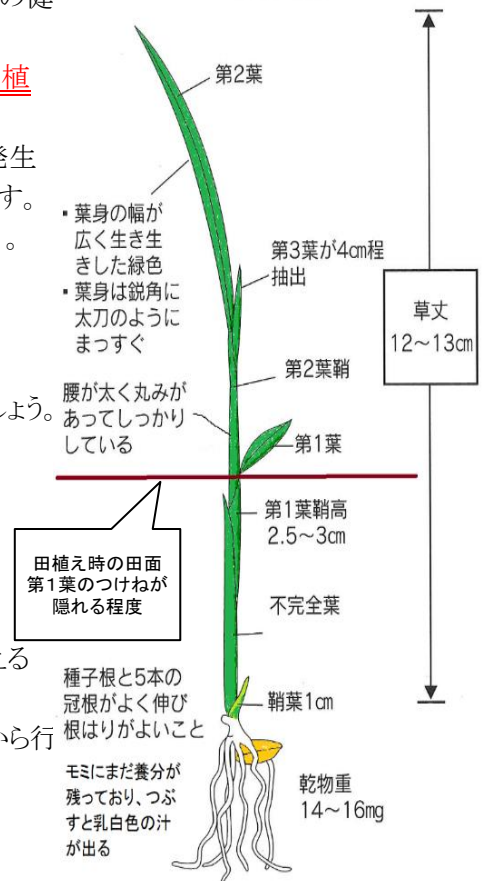
4 基肥施用について〔能登米コシヒカリ：化学合成窒素成分量 5.6 kg/10a 以下〕

- 基肥一発肥料は全層施肥の場合、代かき直前に行い、代かきから田植えまでを5日以上空けないようにして下さい。
(施用日と田植日の日数が開くと、穂肥の溶出パターンと稲の生育がズレ、倒伏や品質低下を招きます。)

施肥体系	肥料名	施用量(kg/10a)	
		能登米コシヒカリ	ゆめみづほ等(早生)
基肥一発	BB 有機入り能登コシー発	20~上限30	—
	BB けい酸パワー・コシー発くん	40~上限55	—
	BB 里山の香	45~上限53	—
	BB 新早生一発くん	—	35~40
分施体系	BB 高度056号	20~上限28	30~40

※ 施用量は目安です。ほ場の地力に応じて、加減して下さい。

田植時の良い苗



※ コシヒカリは、化学窒素成分量を3割削減した能登米栽培のため、施用量の上限を厳守して下さい

5 病害虫防除について

◆ 苗箱施薬剤の散布について

- ・イネミズゾウムシ、イネドロオイムシなどの初期害虫や葉いもちの予防のため、防除を実施して下さい。
- ・昨年、6月下旬以降の低温多雨により、いもち病が蔓延しやすい年となり、管内でもいもち病の発生が確認されています。



イネミズゾウムシ



葉いもち

薬剤名	散布時期	散布量	主な対象病害虫
Dr.オリゼフェルテラ箱粒剤 (2成分) ※ブイゲットフェルテラ箱粒剤代用可 使用方法については要確認	移植当日	50 g /箱	コブノメイガ
	移植3日前 ～移植当日		もみ枯細菌病、白葉枯病、内穎褐変病、イネヒメハモグリバエ
	緑化期 ～移植当日		いもち病、ツマグロヨコバイ、フタオビコヤガ、イネドロオイムシ、イネミズゾウムシ、ニカメイチュウ、イネツトムシ

※ JAからの購入苗には苗箱施薬剤が散布済みの苗があります。重複散布しないよう注意して下さい。

※ 葉が濡れていない状態で均一に散布し、葉に付いた薬剤は払い落して下さい。

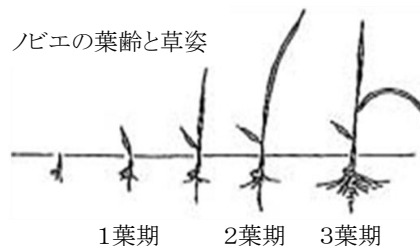
6 除草剤の使用について

- ・雑草は代かき直後から発生し始めます。除草剤の使用時期を守り、かつノビエの適用葉齢以内に散布して下さい。
- ・湛水散布する除草剤の有効成分は、一旦水中に溶解した後、徐々に土壌表面に吸着され、除草効果を発揮します。除草剤の効果を十分発揮させるため、田植後は、直ちにゆるやかに入水し、湛水状態(4~5cm)を保ちましょう。
- ・散布後3~4日間(処理層が形成・安定する時間)は湛水状態(4~5cm)を保ち、散布後7日間は落水やかけ流しはしないで下さい。なお、やむを得ず入水する場合は静かに(処理層を壊さないよう)行って下さい。

(参考)代かき後日数とノビエの葉齢の関係

ノビエの葉齢		1.0 葉齢	1.5 葉齢	2.0 葉齢	2.5 葉齢	3.0 葉齢
代かき後の日数 (平年の場合)	羽 咋	7日	12日	16日	20日	23日
	志 賀	8日	13日	17日	21日	25日
	七 尾	8日	13日	17日	20日	24日

ノビエの葉齢と草姿



※ 5月1日に代かきを行った場合で平年の有効積算温度により試算

体系	成分	除草剤名	10a 使用量	使用時期
初期剤	1	マーシット1キロ粒剤	1kg	田植同時~ノビエ1葉期
	2	かなつぐ1キロ粒剤	1kg	田植同時~ノビエ1.5葉期

体系	成分	除草剤名	10a 使用量	使用時期
中期剤	2	ニトウリュウ1キロ粒剤	1kg	田植後15日~ノビエ4葉期
	3	マメットSM1キロ粒剤	1kg	田植後15日~ノビエ3.5葉期

雑草・後発生がある場合

雑草・後発生がある場合

体系	成分	除草剤名	10a 使用量	使用時期
中中期一発剤	2	キマリテ1キロ粒剤	1kg	田植同時~ノビエ3葉期
		エンペラー1キロ粒剤	1kg	田植同時~ノビエ3葉期
		コメット1キロ粒剤	1kg	田植同時~ノビエ2.5葉期
	3	アツパレZ1キロ粒剤	1kg	田植同時~ノビエ3葉期
		サラブレッドKAI1キロ粒剤	1kg	田植同時~ノビエ2.5葉期
		ゴエモン1キロ粒剤	1kg	田植同時~ノビエ2.5葉期

体系	成分	除草剤名	10a 使用量	使用時期
後期剤	1	多年生雑草が残った場合 アトトリ1キロ粒剤	1kg	田植後14日(稲5葉期以降) ~ノビエ4葉期
		ノビエのみ残った場合 ヒエクリーン1キロ粒剤	1kg	田植後15日~ノビエ4葉期
		広葉・多年生雑草が残った場合 バサグラン粒剤	3~4kg	田植後15日~55日 (落水散布)

能登米コシヒカリに使用できる除草剤は限られています。他に使用できる剤は営農ごよみ等を確認してください。

「能登米コシヒカリ」以外の品種は除草剤の指定はありません。

7 補植について [補植苗はいもち病の発生源となるため、すぐに処分]

- ・20株に1株程度の欠株なら、補植は不要です。隣接株が大きく育ち、欠株分をカバーするため減収にはつながりません。やむを得ず補植する場合は、除草剤を散布する前に実施して下さい。

⇒ 散布後では、除草剤の薬害により補植苗の生育抑制や枯死、足あと部分からの雑草発生の原因になります。

- ・補植用の活け苗は、いもち病の発生源となるので、補植作業後は速やかにほ場から撤去して下さい。